

# Ver2.0から3.3への改定事項について（全般資料）

No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
1	IF仕様変更	MQTTプロトコルのトピック名を修正する	事業者が保有するGWが、保有元の事業体によりのみPublish させるようにするため（データが違う事業体に送信されないようにするため）	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	全般	トピックの記述箇所すべて
				04_機器ベンダー向け標準インターフェイス（システム）仕様書	全般	トピックの記述箇所すべて
2	IF仕様変更	IoTゲートウェイの入力形式、出力形式について“application/xml”と“application/json”両方を許容する	XMLとJSONの両方を許容する現行の仕様に合わせて入出力形式を改定する。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	全般	入力形式、出力形式について“application/xml”と“application/json”両方を許容する
				03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	全般	入力形式、出力形式について“application/xml”と“application/json”両方を許容する
3	IF仕様変更	MQTTのデータ要求トピック {事業体ID} を横並びで {テナントID} に修正する。また {テナントID} の説明を追加する。	1つのテナントを複数の事業体が共有している場合に対応するため。	01_基本仕様書	3.1.2	「識別子(ID)の付与」の章に {テナントID} の説明を横並びで追加する
				03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	全般	MQTTのデータ要求トピック {事業体ID} を横並びで {テナントID} に修正する
				07_CPSIoTセキュリティ仕様書	2.1	「識別子(ID)の付与」の章に {テナントID} を追加
4	IF仕様変更	の通りに修正する ①定周期監視開始 /cps-platform/api/v1/{X-CPS-dataTypeId}/start/ ②定周期監視停止 /cps-platform/api/v1/{X-CPS-dataTypeId}/stop/ ③定周期監視 MQTT(プッシュ指示の応答) /gw/pf/[監視要求(定周期)]/start/{テナントID}/{ゲートウェイID}/{監視要求ID} ④定周期監視停止 MQTT(プッシュ指示の応答(停止)) /gw/pf/[監視要求(定周期)]/stop/{テナントID}/{ゲートウェイID}/{監視要求ID}	定周期監視開始と、定周期監視停止のパス(URL) が同じであり、IFの呼び分けが出来ないため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.5(1)(a)	「表 4-14: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視実行API）」のNo2
					4.7(1)(a)	「表 4-21: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視停止API）」のNo2
				03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	4.5(1)(d)①	「表 4-13: MQTTパブリッシュの接続パラメーター」No2
					4.5(2)(d)①	「表 4-21: MQTTパブリッシュの接続パラメーター」No2
5	IF仕様変更	リクエストおよびレスポンスのボディ部において、親タグが存在しない場合に親タグを追加する	XMLの規約に沿っておらず、文字列解析が出来ないため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.1(1)(a)	「表 4-1: HTTP(S)リクエストのパラメーター（アプリケーション接続API）」No10
					4.1(1)(b)	「表 4-2: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（アプリケーション接続API）」No6
					4.2(1)(a)	「表 4-3: HTTP(S)リクエストのパラメーター（アプリケーション切断API）」No10
					4.5(1)(b)	「表 4-15: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視実行API）」No7
					4.6(1)(b)	「表 4-20: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視一覧取得API）」No7
					4.7(1)(a)	「表 4-21: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視停止API）」No11
					4.8(1)(b)	「表 4-24: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（制御値設定API）」No7
				4.9(1)(a)	「表 4-31: HTTP(S)リクエストのパラメーター（公開鍵証明書ファイル取得API）」No11	
03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	4.7(1)(b)	「表 4-31 HTTP(S)リクエストのパラメーター（公開鍵証明書ファイル取得）」No11				
6	IF仕様変更	リクエストおよびレスポンスのボディ部に何も設定していない場合にルートタグを追加する	XMLの規約に沿っておらず、文字列解析が出来ないため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.2(1)(b)	「表 4-4: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（アプリケーション切断API）」No6
					4.6(1)(a)	「表 4-19: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視一覧取得API）」No11
					4.7(1)(b)	「表 4-22: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視停止API）」No7
				03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	4.2(1)(c)	「表 4-4: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（ゲートウェイ切断）」No8
					4.4(1)(c)②	「表 4-8: HTTP(S)レスポンスのパラメーター」No9
					4.5(1)(c)①	「表 4-11: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視/プッシュ指示の応答）」No8
					4.5(1)(c)②	「表 4-12: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視/プッシュ指示の応答）」No8
					4.5(1)(e)②	「表 4-16: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視イベントデータ）」No9
					4.5(2)(c)①	「表 4-19: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視(停止)）」No13
					4.5(2)(c)②	「表 4-20: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視(停止)）」No8
4.6(1)(c)②	「表 4-24: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視/プッシュ指示の応答）」No8					
7	IF仕様変更	公開鍵証明書取得のレスポンスに「証明書バージョン」を追加	証明書の期限管理など、証明書のバージョンに	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.9(1)(a)	「表 4-31: HTTP(S)リクエストのパラメーター（公開鍵証明書ファイル取得API）」No10
					4.9(1)(b)	「表 4-32: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（公開鍵証明書ファイル取得API）」No6

No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
7	IF仕様変更	する	基づく管理や運用を可能とするため。	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	4.7(1)(b) 4.7(1)(c)	「表 4-31 HTTP(S)リクエストのパラメーター (公開鍵証明書ファイル取得) 」No9 「表 4-32 HTTP(S)レスポンスのパラメーター (公開鍵証明書ファイル取得) 」No6
8	IF仕様変更	制御値設定インターフェイスを3種→2種にIF統合する	同じ処理が二重で定義されており、一方が不要であったため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.8(2)(b)	「表 4-28:制御値設定API(IoTゲートウェイへの制御操作送達完了時)のWebSocket(S)受信データ」No11 不正業務アクティビティ有り:100 に変更
					4.8(2)(b)	「表 4-29:制御値設定API(デバイスへの制御操作送達完了時)のWebSocket(S)受信データ」No11 正常終了:1 に変更 不正業務アクティビティ有り:100 に変更
					4.8(2)(b)	「表 4-30:制御値設定API(デバイスの制御操作完了時)のWebSocket(S)受信データ」No11 正常終了:2 に変更 不正業務アクティビティ有り:100 に変更
					03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	ver3.0版 4.6(1)(d) ver3.0版 4.6(1)(g)
9	IF仕様変更	データ分割送信する場合、分割データの結合はAPで実施する	データ分割送信時のプラットフォーム処理を非同期に変更したため、プラットフォームで結合すると非同期処理のメリットが無くなるため。	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	3.4	「図3-8:データの分割送信」および本文
				04_機器ベンダー向け標準インターフェイス(システム)仕様書	3.4	「図3-7:データの分割送信」および本文
10	IF仕様変更	(認証スキーム)auth-scheme IF項目削除	(認証スキーム)auth-schemeは説明文であり、実際のリクエストでは階層構造を取らないため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	全般	(認証スキーム)auth-schemeのIF項目を一律削除する
11	IF仕様変更	AP接続とAP切断のURLを区別するよう修正する	現行の仕様では、AP接続とAP切断のURLが一緒になっており、区別ができないため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.1(1)(a)	「表4-1:HTTPS(S)リクエストのパラメーター(アプリケーション接続API)」No2 URLに "connection" を追加
					4.3(1)(a)	「表4-3:HTTPS(S)リクエストのパラメーター(アプリケーション切断API)」No2 URLに "disconnect" を追加
12	IF仕様変更	アプリケーション接続のレスポンスボディに下記項目を追加 ・接続先URI(即時監視) ・接続先URI(制御操作)	処理方式見直しにより、非同期処理になり、アプリケーションがHTTPからWebSocketと接続できるようするため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.1(1)(b)	「表 4-2: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (アプリケーション接続API) 」No6
13	IF仕様変更	即時取得で、「計測区分コード」"状態(D2)"と"異常(D3)"の場合に、履歴値を取得できるよう修正する	D2やD3についても、過去時間を指定することで履歴値を取得できるようにする	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.4	「表4-8:即時取得できるデータの種類の一覧」No4、No6
14	IF仕様変更	即時取得APIのリクエストのパス(URL)を以下の通りに修正する /cps-platform/api/v1/{X-CPS-dataTypeId}/gw/ ※末尾に "gw" を追加	即時取得のIFから即時取得(蓄積)の処理を分離し、別IFにしたため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.4(1)(a)	「表 4-9: HTTP(S)リクエストのパラメーター (即時取得API) 」No2
15	IF仕様変更	即時取得のレスポンスに「監視要求ID」を追加する	即時取得のレスポンスの処理方式を非同期処理に変更した事に伴い、AP側でリクエストとレスポンスを紐付け出来るようにするため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.4(1)(b)	「表 4-10: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (即時取得API) 」No8
16	IF仕様変更	HTTPメソッドを "GET" → "POST" に変更する	記載誤りのため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.5(1)(a)	「表 4-14: HTTP(S)リクエストのパラメーター (定周期監視実行API) 」No1
17	IF仕様変更	定周期監視実行および定周期監視停止のレスポンスで、処理失敗時、不正要求の時、AP未接続の時の「(エラー詳細) detail」を削除する	レスポンスに含まれるコードなどの情報により十分対応できるため、それ以上の付加情報は不要。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.5(1)(b)	「表 4-15: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (定周期監視実行API) 」No7
					4.7(1)(b)	「表 4-22: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (定周期監視停止API) 」No7
18	IF仕様変更	定周期監視一覧取得のレスポンス項目に、「ユーザID」「アプリケーションID」を追加する	アプリケーション再接続後の場合でも、定周期監視一覧を取得できるようにするため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.6(1)(b)	「表 4-20: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (定周期監視一覧取得API) 」No7
19	IF仕様変更	制御操作のアプリケーションからプラットフォームのリクエストパラメータの「入力形式」に"application/JSON"を追加する	もともと、XMLしかなかったため、両方の方式に対応するため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.8(1)(a)	「表4-23:HTTPS(S)リクエストのパラメータ(制御値設定API) 」No8
20	IF仕様変更	制御値設定APIのレスポンスの出力形式「multipart/xml」を「application/xml」に修正する	非同期処理で一つ一つレスポンスを返すようになったため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.8(1)(b)	「表 4-24: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (制御値設定API) 」No5
21	IF仕様変更	制御要求IDの返却値の説明誤りを是正する。	説明に記載している以下のフォーマットが記載誤りであるため。 事業者ID + '-' (ハイフン) + NNNNNNNNNN(シーケンス番号10桁)	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.8(1)(b)	「表 4-24: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (制御値設定API) 」No7 説明欄を以下の文章に修正する 『制御要求を一意に示すID』

No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
22	IF仕様変更	公開鍵証明書ファイル取得 (AP) のリクエストボディの説明内容を以下のように改訂 "{[ファイルID]}"を指定以下のいずれかを指定 ・アプリケーションの場合： "[アプリケーションID]"を指定 ・水道標準プラットフォームの証明書情報を取得する場合： "{0000}"固定	「公開鍵証明書参照先情報API」の統合に伴う仕様変更のため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.9(1)(a)	「表 4-31: HTTP(S)リクエストのパラメーター (公開鍵証明書ファイル取得API) 」No12
23	IF仕様変更	「4.10 即時取得 (蓄積) API」の章を追加する	即時取得のIFから即時取得 (蓄積) の処理を分離し、別IFにしたため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.10	「4.10 即時取得 (蓄積) API」の章を新規追加する
24	IF仕様変更	「MQTTサブスクリバで指定するトピック」について具体値を記載	"/{ゲートウェイID}/" だけ書いており、説明内容が不十分であったため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	3.2(3)(a)	MQTTサブスクリバで指定するトピック
25	IF仕様変更	RESTのURIにトレイリングスラッシュ (URL末尾の"/) を追加する	RESTの仕様のためトレイリングスラッシュ必須であるため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.1(1)(b)	「表 4-1: HTTP(S)リクエストのパラメーター (ゲートウェイ接続) 」No2
					4.2(1)(b)	「表 4-3: HTTP(S)リクエストのパラメーター (ゲートウェイ切断) 」No2
					4.4(1)(c)①	「表 4-7: HTTP(S)リクエストのパラメーター (即時監視/データ応答) 」No2
26	IF仕様変更	GW接続とGW切断のURLを区別するよう修正する	GW接続とGW切断が一緒のURLになっており、区別ができないため。	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.1(1)(b)	「表4-1 : HTTPS (S) リクエストのパラメーター (ゲートウェイ接続) 」No2 URLに "connection" を追加
					4.3(1)(b)	「表4-3 : HTTPS (S) リクエストのパラメーター (ゲートウェイ切断) 」No2 URLに "disconnect" を追加
27	IF仕様変更	ゲートウェイ接続のレスポンスボディの「ゲートウェイ接続プロパティ」以降の項目を1階層下げ、ゲートウェイ接続プロパティの子タグとする	記載誤りのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.1(1)(c)	「表 4-2 HTTP(S)レスポンスのパラメーター (ゲートウェイ接続) 」No8
28	IF仕様変更	ゲートウェイ切断APIより、「アクセス先URI」項目を削除する	GW切断では不要な項目のため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.2(1)(c)	「表 4-4: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (ゲートウェイ切断) 」
29	IF仕様変更	即時監視、定周期監視のリクエストヘッダ項目の「監視要求ID」の値を"必須"に修正する	「監視要求ID」が無ければ受信側の紐づけ処理が不可能であるため、"必須"とした。	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.4(1)(c)①	「表4-7 : HTTPS (S) リクエストのパラメーター (即時監視/データ応答) 」No11
					4.5(1)(c)①	「表4-11 : HTTPS (S) リクエストのパラメーター (定周期監視/プッシュ指示の応答) 」No10
					4.5(1)(e)①	「表4-15 : HTTPS (S) リクエストのパラメーター (定周期監視イベントデータ) 」No11
30	IF仕様変更	即時監視の MQTTパブリッシュに、(実行結果コード)X-CPS-Result IF項目を追加する	当該IFにおける記載が漏れていたため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.4(1)(d)②	「表 4-10: MQTTパブリッシュのパラメーター (即時監視/データ応答) 」No11
31	IF仕様変更	即時監視、定周期監視、制御値設定の MQTTパブリッシュに、(ゲートウェイID)X-CPS-GetwayId IF項目を追加する	①定周期監視処理の際、ゲートウェイIDを指定して処理するため ②暗号化、複合化処理で使用するため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.4(1)(d)②	「表 4-10: MQTTパブリッシュのパラメーター (即時監視/データ応答) 」No10
					4.5(1)(c)①	「表 4-11: HTTP(S)リクエストのパラメーター (定周期監視/プッシュ指示の応答) 」No11
					4.5(1)(d)②	「表 4-14: MQTTパブリッシュのパラメーター (定周期監視/プッシュ指示の応答) 」No9
					4.5(1)(e)①	「表 4-15: HTTP(S)リクエストのパラメーター (定周期監視イベントデータ) 」No12
					4.5(1)(f)②	「表 4-18: MQTTパブリッシュのパラメーター (定周期監視イベントデータ) 」No10
					4.5(2)(c)①	「表 4-19: HTTP(S)リクエストのパラメーター (定周期監視 (停止)) 」No11
					4.5(2)(d)②	「表 4-22: MQTTパブリッシュのパラメーター (定周期監視 (停止)) 」No9
					4.6(1)(e)②	「表 4-28: MQTTパブリッシュのパラメーター (制御値設定/制御要求受付の応答) 」No11
4.6(1)(f)②	「表 4-30: MQTTパブリッシュのパラメーター (制御値設定/制御結果の応答) 」No10					
32	IF仕様変更	定周期監視/プッシュ指示応答のパス (URL) を以下の通りに修正する /cps-platform/sbi/v1/monitoring/result_startd/ ※末尾の "d" を削除	記載誤りのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.5(1)(c)①	「表 4-11: HTTP(S)リクエストのパラメーター (定周期監視/プッシュ指示の応答) 」No2
33	IF仕様変更	定周期監視実行および定周期監視停止のレスポンスで、「実行結果コード」から、実行結果コード401を削除する	実行結果コード401 となるケースがないため ※HTTP 401 Unauthorized は、有効な認証資格が不足していることによりリクエストが適用されないことを示すクライアントエラーのレスポンスコード	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.5(1)(c)②	「表 4-12: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (定周期監視/プッシュ指示の応答) 」No1
					4.5(2)(c)②	「表 4-20: HTTP(S)レスポンスのパラメーター (定周期監視 (停止)) 」No1
34	IF仕様変更	定周期監視インターフェイスの定周期データ受信の利用するプロファイルを修正する (即時監視データの内容が記載されていた)	「即時監視データ」ではなく、「定周期監視データ」が正しいため (記載誤り)	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.5(1)(e)①	「表4-15 : HTTPS (S) リクエストのパラメーター (定周期監視イベントデータ) 」No14

No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
35	IF仕様変更	制御値操作インターフェース内の「監視要求ID」を「制御要求ID」に変更する	制御値設定の項で、制御要求IDと監視要求IDが混在しているが、全て制御要求ID (X-CPS-controlRequestId) にする	03_機器ベンダー向け標準インターフェース (デバイス) 仕様書	4.6 全般	制御要求IDと監視要求IDが混在しているが、全て制御要求ID (X-CPS-controlRequestId) にする
36	IF仕様変更	制御値設定/制御要求受付の応答APIのリクエストのパス (URL) を以下の通りに修正する  /cps-platform/sbi/v1/device_control/submit_result/ ↓ /cps-platform/sbi/v1/device_control/sending_result/	記載誤りのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェース (デバイス) 仕様書	4.6(1)(c)①	「表 4-23: HTTP(S)リクエストのパラメーター (制御値設定/制御要求受付の応答) 」No2
37	IF仕様変更	制御値設定インターフェースのリクエスト項目「制御要求ID」を "不要"→"必須"に変更する	記載誤りのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェース (デバイス) 仕様書	4.6(1)(d)①	「表 4-25: HTTP(S)リクエストのパラメーター (制御値設定/制御結果の応答) 」No11
38	IF仕様変更	公開鍵証明書ファイル取得 (GW) リクエストヘッダ「取得条件」説明文誤りの是正	以下の通り、誤記が発覚したため。  × ・アプリケーションの場合 "[アプリケーションID]"を指定  ○ ・ゲートウェイの場合 "[ゲートウェイID]"を指定	03_機器ベンダー向け標準インターフェース (デバイス) 仕様書	4.7(1)(b)	「表 4-31 HTTP(S)リクエストのパラメーター (公開鍵証明書ファイル取得) 」No12
39	記載修正	「モード切り替え中/モード切り替え OFF 状態」の計測区分コードをV2064に修正する	「時間運転/ろ抗運転 状態」と「モード切り替え中/モード切り替え OFF 状態」の計測区分コードが重複しているため	01_基本仕様書	5.3.5	「表5-7：計測区分コード/変換コード (計測分類コード: 状態)」No56
40	記載修正	リクエストのタイムスタンプについて「YYYY-MM-DDThh:mm:ss.SSSZ」フォーマットとすることを明記する	現在の説明文だと、UTCで時刻を扱うこと、および時刻フォーマットのルールが不明瞭であるため	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書  03_機器ベンダー向け標準インターフェース (デバイス) 仕様書	全般	リクエストのタイムスタンプの説明について、以下の要領で記載を変更する。  旧) ISO8601拡張形式の文字列 (要求時刻) 東京 (UTC+09:00) における2017年01月23日の12時34分56秒の例：2017-01-23T12:34:56.000+09:00 生成日時 (リクエスト時刻) を指定  新) ISO8601に従って要求時刻を指定 YYYY-MM-DDThh:mm:ss.SSSZ (生成日時 (リクエスト時刻) を指定)
41	記載修正	レスポンスのタイムスタンプについて外部に日時を返却する際のフォーマットが不明確であるため、本プラットフォームとして統一する。  ◆フォーマット YYYY-MM-DDThh:mm:ss.SSSZ	外部に日時を返却する際のフォーマットが不明確であるため。  ◆前提 1. フォーマットはISO8601拡張形式とする 2. 本システムはUTCで時刻を扱う  ◆補足 1. DDとhhの間に "T" を入れる 2. 小数点以下は "SSS" の3桁 (ミリ秒まで) 3. 最後に "Z" をつける ※UTCの意味	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	全般	レスポンス項目の「タイムスタンプ」の説明欄全て
42	記載修正	レスポンスのパラメータ「Content-type」の設定は、リクエストのパラメータ「Content-type」と同一であることを明記	入力形式 (json or xml) と出力形式 (json or xml) は同じになる事を明記するため	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書  03_機器ベンダー向け標準インターフェース (デバイス) 仕様書	全般	レスポンスのパラメータ「(出力形式)Content-type」の説明文を一律変更する  新) リクエストで指定したAcceptの内容 "application/xml" または "application/json"
43	記載修正	下記の通り、記載誤りを修正する  ×) IANAに登録されたMINEタイプ application/xml を指定 ○) IANAに登録されたMINEタイプを指定	XMLとjsonの両方を許容するよう仕様を変更したため	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書  03_機器ベンダー向け標準インターフェース (デバイス) 仕様書	全般	以下の通りに文言修正する  ×) IANAに登録されたMINEタイプ application/xml を指定 ○) IANAに登録されたMINEタイプを指定
44	記載修正	リクエストパラメータ (データ取得先情報) Acquisition の説明文より下記文言を削除する  「プラットフォームに蓄積されているデータを取得する場合： "PF"」	即時取得のIFから即時取得 (蓄積) の処理を分離し、別IFにしたため	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	4.4(1)(a)	「表 4-9: HTTP(S)リクエストのパラメーター (即時取得 API) 」No10
45	記載修正	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書 5.13～5.16節を追加する	追加されたインターフェースの仕様内容を記載するため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	5.13～5.16	5.13～5.16章に移動する

No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
46	記載修正	リクエスト、レスポンスのパラメータ「Xml宣言文」の項目を削除する	パラメータとして明記している表と明記していない表が混在していたため、明記しない方針で記載統一する (なおXML宣言文はXML形式の場合、暗黙のうちに必ず設定されるものとなる)	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	全般	「表 4-9: HTTP(S)リクエストのパラメータ (即時取得API)」No11
47	記載修正	誤記修正「制御検索結果」→「制御操作結果」	記載誤りのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	全般	"検索" → "操作" に一律置換する
48	記載修正	ゲートウェイ接続インターフェイスの「操作種別」を「POST」とし、「GET」は削除する	記載誤りのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	4.1(1)(b)	「表4-1: HTTPS (S) リクエストのパラメータ (ゲートウェイ接続)」No6
49	記載修正	ゲートウェイ接続インターフェイスと、ゲートウェイ切断インターフェイスの、ボディ部の「ゲートウェイ接続プロパティ」の説明を削除する 具体的には、「XML形式かJSON形式を指定」との記述を削除する。	いずれの形式でも対応できるようになったため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	4.1(1)(b)	「表4-1: HTTPS (S) リクエストのパラメータ (ゲートウェイ接続)」No11
					4.2(1)(b)	「表4-3: HTTPS (S) リクエストのパラメータ (ゲートウェイ切断)」No11
50	記載修正	ゲートウェイ接続インターフェイスとゲートウェイ切断インターフェイスのボディ部の「ゲートウェイ種別」の説明を、IoTゲートウェイの場合のみに修正する	IoTゲートウェイの章に、システムゲートウェイの記載が書かれているため修正する。	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	4.1(1)(b)	「表 4-1: HTTP(S)リクエストのパラメータ (ゲートウェイ接続)」No14
					4.1(1)(c)	「表 4-2 HTTP(S)レスポンスのパラメータ (ゲートウェイ接続)」No8
					4.2(1)(b)	「表 4-3: HTTP(S)リクエストのパラメータ (ゲートウェイ切断)」No14
51	記載修正	ゲートウェイ接続インターフェイスのレスポンスのヘッダ部の「出力形式」の説明を、「リクエスト時の「入力形式」で指定した内容」に修正する	もともとは、「出力コンテンツ種別」を指定することになっていたが、そのような種別は無いため、記載を修正する。	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	4.1(1)(c)	「表4-2: HTTPS (S) レスポンスのパラメータ (ゲートウェイ接続)」No5
52	記載修正	定周期監視MQTTパブリッシュの、定周期監視イベントデータのパラメータ「操作種別ID」の説明内容を「定周期監視要求」に修正する	記載誤りのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	4.5(1)(f)②	「表4-18: MQTTパブリッシュのパラメータ (定周期監視イベントデータ)」No4
53	記載修正	公開鍵証明書ファイル取得 (GW) リクエストヘッダ、レスポンスヘッダの「依頼元情報」説明文誤りの是正  × 03-[ゲートウェイID]を指定 ○ 04-[ゲートウェイID]を指定	記載誤りのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書	4.7(1)(b)	「表 4-31 HTTP(S)リクエストのパラメータ (公開鍵証明書ファイル取得)」No7
					4.7(1)(c)	「表 4-32 HTTP(S)レスポンスのパラメータ (公開鍵証明書ファイル取得)」No4
54	記載修正	データセキュリティインターフェイスで、対象はJSON形式に修正する	利用する形式を明確しておくため。	05_水道標準プラットフォーム外部仕様書	5章	データセキュリティインターフェイスで、対象はJSON形式に修正する
55	記載修正	マスタ管理モジュールのマスタ設計情報を修正する	PF内性能確保を目的にマスタ構成を改善したため	05_水道標準プラットフォーム外部仕様書	8章	マスタ管理モジュールのマスタ設計情報を修正する
56	記載修正	データプロファイルの「情報リンク先」の物理名の綴りが誤っているので修正する  ×) LinkAddress ○) LinkAddress	記載誤りのため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	全般	以下の通り、綴り誤りを修正する。 ×) LinkAddress ○) LinkAddress
57	記載修正	データプロファイル(簡易版)の「指示区分ID」の物理名を<OrderTypeID>⇒<OrderTypeId>に修正する	記載誤り(最後の「D」は小文字が正しい)のため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	全般	<OrderTypeID>⇒<OrderTypeId>に修正する ※簡易版のみ
58	記載修正	データプロファイル(簡易版)の「設備ID」の物理名を<equipmentID>⇒<EquipmentId>に修正する	記載誤り(先頭の「E」は大文字、最後の「D」は小文字が正しい)のため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	全般	<equipmentID>⇒<EquipmentId>に修正する ※簡易版のみ
59	記載修正	データプロファイル(簡易版)の「プロセス区分コード」の物理名を<ProcessTypeID>⇒<ProcessTypeCd>に修正する	記載誤りのため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	全般	<ProcessTypeID>⇒<ProcessTypeCd>に修正する ※簡易版のみ
60	記載修正	データプロファイル設定内容や設定例で、「m」など単位している例を、「単位コード」で指定するよう修正する	単位は「単位コード」で指定するため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	全般	設定例で、「m」など単位している例を、「単位コード」で指定するよう修正する
61	記載修正	データプロファイル実装フォーマットの図 2-13 において、<ProfileVersion>、<EncryptionSessionKey>、<PublicKeySecretKeyVersionId>が<Activity>配下の子タグになっている誤りを修正する	<Activities>配下の子タグであるのが正しいため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.1	図 2-13 において、<ProfileVersion>、<EncryptionSessionKey>、<PublicKeySecretKeyVersionId>を<Activities>配下の子タグに変更する
62	記載修正	データプロファイル(簡易版)のヘッダの「作成日時」の物理名を<Time> ⇒ <CreationTime>に修正する	記載誤りのため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.2.2	「図 2-16: ヘッダ<Header>実装フォーマット図(簡易版)」
63	記載修正	データプロファイル(簡易版)のディレクションの「指示を受けた日時」の物理名を<Time> ⇒ <OrderTime>に修正する	記載誤りのため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.3.2	「図 2-18: <Direction>実装フォーマット図(簡易版)」
64	記載修正	データプロファイル(簡易版)のトランザクションの「結果が出た日時」の物理名を<Time> ⇒ <ResultTime>に修正する	記載誤りのため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.4.2	「図 2-20: <Transaction>実装フォーマット図(簡易版)」

No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
65	記載修正	データプロファイル（簡易版）の「プロセス区分コード」の物理名を <QCItemObject>⇒<ResultInfo> に修正する	記載誤りのため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.4.2	<QCItemObject>⇒<ResultInfo> に修正する ※簡易版のみ
66	記載修正	データプロファイル（簡易版）の<ResultInfo>の項目名を「結果区分CD」⇒「結果情報」に修正する 備考欄の（設備指示：I01 計測値指示：I02）の記載も削除する	記載誤りのため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.4.2	<ResultInfo>の項目名を「結果区分CD」⇒「結果情報」に修正する 備考欄の（設備指示：I01 計測値指示：I02）の記載も削除する
67	記載修正	「図 2-20: <Transaction>実装フォーマット図(簡易版)」より以下の文言に修正する。 『<ResultInfo>を暗号化対象とした場合は、タグ変換はせず、値のみを暗号化する。』	Ver.2 → Ver.3 の仕様変更 No.12 において、暗号化方式の仕様変更により、タグの置換は行わず、項目毎に暗号化するのが正しい仕様であるため。	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.4.2	「図 2-20: <Transaction>実装フォーマット図(簡易版)」
68	記載修正	「図 2-20: <Transaction>実装フォーマット図(簡易版)」より暗号化した後のルートタグを <QCItemObject>⇒<ResultInfo> に修正する 合わせて<ResultInfo>内の<AlarmValueMin>、<AlarmValueMax>を<LL><L><HH><H>に修正する。	記載誤りのため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.4.2	「図 2-20: <Transaction>実装フォーマット図(簡易版)」
69	記載修正	<Transaction>タグ配下に以下3つを追加する <StartTime>(開始日時) <EndTime>(終了日時) <LinkAddress>(情報リンク先)	記載漏れの箇所が存在したため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.4.2	「図 2-20: <Transaction>実装フォーマット図(簡易版)」
70	記載修正	セキュリティ方式の説明を「通常版」「簡易版」それぞれで説明を追加する	簡易版の方は電子署名の機能実装を行っていないことを明記するため	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	2.3.5.2	2.3.5.2 内容追加
71	記載修正	標準APIの仕様追加 ・アプリケーションからデータベースへの書き込み仕様	ver2→ver3への改定事項のNo4について、標準仕様書への改定内容が記載に反映されていないため。	01_基本仕様書	4.1	・文言変更 × データ操作(参照、変更) ○ データ操作(追加、変更、削除、参照)
				01_基本仕様書	4.1.3	・文言変更 × データ操作(参照、変更) ○ データ操作(追加、変更、削除、参照) ・(4) データ操作(追加)プル型 説明および図の追加 ・(5) データ操作(削除)プル型 説明および図の追加
72	記載修正	運用時の証明書取得ルールの追加	ver2→ver3への改定事項のNo7について、標準仕様書への改定内容が記載に反映されていないため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	2.3	「なお証明書は～」以下の記述を追加
				03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	2	
				04_機器ベンダー向け標準インターフェイス（システム）仕様書	2	
73	記載修正	WEB・APサーバからの要求依頼の通信方式の改善	ver2→ver3への改定事項のNo13について、標準仕様書への改定内容が記載に反映されていないため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	3.4.3	同期方式から非同期方式への通信方式変更に伴い、図3-10～図3-13 を変更
74	記載修正	機器区分コードのNo96の誤記修正	下記の通り記載誤りが存在するため ×ロータリーバルブ ○ロータリーバルブ	01_基本仕様書	5.3.3	「表 5-4: 機器区分コード」 No96の機器区分名の誤記を修正
75	記載修正	計測値区分コードのNo20の誤記修正	No19とNo20の計測区分名について「残留塩素」が重複しているため	01_基本仕様書	5.3.5	「表 5-6: 計測値区分コード（計測分類コード:計測）」 No20の計測区分名を“(予備)”に、単位を“-”に変更
76	記載修正	計測値区分コードのNo56の誤記修正	下記の通り記載誤りが存在するため ×受電電力率 ○受電電力率	01_基本仕様書	5.3.5	「表 5-6: 計測値区分コード（計測分類コード:計測）」 No56の計測区分名の誤記を修正
77	仕様変更	機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）におけるPF→GWへの正常終了時のステータスコードを修正 ×正常終了:202 ○正常終了:200	HTTP プロトコルのステータスコード仕様に従うため。	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	4.1(1)(c)	「表 4-2 HTTP(S)レスポンスのパラメーター（ゲートウェイ接続）」No1
					4.2(1)(c)	「表 4-4: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（ゲートウェイ切断）」No1
					4.4(1)(c)②	「表 4-8: HTTP(S)レスポンスのパラメーター」No1
					4.5(1)(c)②	「表 4-12: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視/プッシュ指示の応答）」No1
					4.5(1)(e)②	「表 4-16: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視イベントデータ）」No1
					4.5(2)(c)②	「表 4-20: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視(停止)）」No1
					4.6(1)(c)②	「表 4-24: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視/プッシュ指示の応答）」No1
					4.6(1)(d)②	「表 4-26: HTTP(S)レスポンスのパラメーター（定周期監視/制御結果の応答）」No1
4.7(1)(c)	「表 4-32 HTTP(S)レスポンスのパラメーター（公開鍵証明書ファイル取得）」No1					
					4.1(1)(b)	「表 4-1: HTTP(S)リクエストのパラメーター（ゲートウェイ接続）」No2

No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
78	仕様変更	機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）におけるAPI呼び出しをパス（URL）から"/cps-platform"の記載を削除	/cps-platform は環境毎に可変となるが、標準仕様書では固定URLとして記載されているため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス（デバイス）仕様書	4.2(1)(b)	「表 4-3: HTTP(S)リクエストのパラメーター（ゲートウェイ切断）」No2
					4.4(1)(c)①	「表 4-7: HTTP(S)リクエストのパラメーター（即時監視/データ応答）」No2
					4.5(1)(c)①	「表 4-11: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視/プッシュ指示の応答）」No2
					4.5(1)(e)①	「表 4-15: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視イベントデータ）」No2
					4.5(2)(c)①	「表 4-19: HTTP(S)リクエストのパラメーター（定周期監視（停止）」No2
					4.6(1)(c)①	「表 4-23: HTTP(S)リクエストのパラメーター（制御値設定/制御要求受付の応答）」No2
					4.6(1)(d)①	「表 4-25: HTTP(S)リクエストのパラメーター（制御値設定/制御結果の応答）」No2
					4.7(1)(b)	「表 4-31 HTTP(S)リクエストのパラメーター（公開鍵証明書ファイル取得）」No2
79	仕様変更	「データ検索条件の指定方法」仕様削除	現在仕様として存在しておらず、削除漏れのため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	3.5.2	章ごと記載を削除
80	仕様変更	マスタデータ参照APIから「施設関連マスタ」を削除	「施設関連マスタ」自体が不要であり、ER図から削除したため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.3	「表 4-5: 指定したデータ種別に対応する要求情報及び応答情報のデータ一覧」No5
81	仕様変更	マスタデータ参照APIを下記3分割する ①施設マスタデータ参照 ②設備マスタデータ参照 ③機器・計測項目マスタデータ参照	標準仕様書に記載の汎用的なAPI仕様ではなく、マスタ別にAPIを策定し、利便性を改善するため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.3	新設した3APIのリクエスト、レスポンス仕様を追記

No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
82	仕様変更	システム系インターフェースの不要APIの削除	システム系では、定周期取得等の処理自体が存在せず、5.1 ~ 5.12 のAPIは使われる事がないため、記載そのものを削除する	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	5.1 ~ 5.12	下記のシステム系APIを記載削除する 5.1 アプリケーション接続API 5.2 アプリケーション切断API 5.3 マスタデータ参照API 5.4 即時データ操作API 5.5 定周期データ取得開始API 5.6 定周期データ取得API 5.7 定周期データ取得一覧取得API 5.8 定周期データ取得停止API 5.9 定周期データ蓄積開始API 5.10 定周期データ蓄積一覧取得API 5.11 定周期データ蓄積停止API 5.12 公開鍵証明書ファイル取得API
83	仕様変更	システム系インターフェースの仕様最新化	ver3.0版以降、DB操作、ファイル操作、マスタ参照のAPI仕様に変更があったため、最新の仕様で資料を最新化する	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	5.13以降	下記のシステム系APIの記載を追記/最新化する 1. ドキュメント参照 2. ドキュメント登録操作 3. ドキュメント更新操作 4. ドキュメント削除操作 5. ファイル参照 6. ファイル登録操作 7. ファイル削除操作 8. マスタデータ参照(システム)
84	仕様変更	データプロパティ仕様の最新化	各マスタの仕様が記載されているが、内容が古いので最新化する。またマスタデータ参照に関するTBL以外の記載は冗長なため記載削除する	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	6	以下のマスタについて内容を最新化する 6.2 施設マスタのプロパティ仕様 6.3 設備マスタのプロパティ仕様 6.4 機器マスタのプロパティ仕様 6.5 計測項目マスタのプロパティ仕様 →なおTBLの物理名は公開不要のため記載削除する。 →「記述仕様は、前述(3.5.1 項)を参照。」を一律削除 以下のマスタについて記載削除する 6.1 アプリケーション接続情報のプロパティ仕様 6.6 施設関連マスタのプロパティ仕様 6.7 システムマスタのプロパティ仕様 6.8 業務マスタのプロパティ仕様 6.9 データ項目マスタのプロパティ仕様 6.10 監視結果通知先情報のプロパティ仕様 6.11 証明書参照先情報のプロパティ仕様
85	記載修正	「要求データの取得パラメータ(制御要求結果)」記載削除	現在仕様として存在しておらず、削除漏れのため	03_機器ベンダー向け標準インターフェース(デバイス)仕様書	4.3(1)(e)	該当章節の記載を削除
86	記載修正	StartTime, EndTime の説明修正	StartTime, EndTime の説明が不適切なので修正する。 × 監視終了日時を設定する ○ 結果取得時の日時を設定する	06_水道CPSデータプロファイル仕様書	全般	StartTime, EndTime の説明を横並び修正。 × 監視開始日時を設定する, 監視終了日時を設定する ○ 結果取得時の日時を設定する
87	仕様変更	標準APIの追加、および仕様変更	ver2→ver3への改定事項のNo4について、標準仕様書への改定内容が標準仕様書に反映されていないため。	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	4.10(1)(a)	No8 ボディ部の返却項目を変更
					4.11~4.17	標準API新規追加 4.12. ドキュメント参照 (デバイス) 4.12. ドキュメント登録 (デバイス) 操作 4.13. ドキュメント更新 (デバイス) 操作 4.14. ドキュメント削除 (デバイス) 操作 4.15. ファイル参照 4.16. ファイル登録操作 4.17. ファイル削除操作
					5.9	標準API新規追加 5.9. 公開鍵証明書ファイル取得
88	仕様変更	アプリベンダー向け標準インターフェースにおける API 呼び出しのパス (URL) から "/cps-platform" の記載を削除	/cps-platform は環境毎に可変となるが、標準仕様書では固定URLとして記載されているため	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	全般	リクエストのパラメータの「パス (URL) 」より/cps-platformの記述を横並び削除
					03_機器ベンダー向け標準インターフェース(デバイス)仕様書	4.8~4.9
89	IF仕様変更	アプリケーション接続API のリクエストヘッダに「依頼元情報」を追加し、リクエストボディの「アプリケーションID」を削除する	他IFと同様の仕組みとするために、IF項目を見直ししたため	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	4.1(1)(a)	「表 4-1: HTTP(S)リクエストのパラメータ (アプリケーション接続API) 」No6追加、ボディ部の「アプリケーションID」を記載削除
90	仕様変更	定周期一覧取得APIのレスポンスボディにresponseタグを追加	出力形式にXMLを指定した時にエラーが発生するため (故障対応)	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	4.6(1)(a)	定周期一覧取得APIのレスポンスボディの第一階層にresponseタグを追加
91	記載修正	WebSocket(S)接続時の接続結果の記載修正 ・400→400番台に記載を改める	説明不十分であったため	02_アプリベンダー向け標準インターフェース仕様書	4.4(2)(a)	「WebSocket(S)接続時の接続結果」の表について、 ・400→400番台に記載を改める
					4.5(2)(a)	



No	分類	改定事項	改定理由	改定箇所		
				修正資料名	章節	改定箇所・内容
		・500番台の記載を追加する			4.8(2)(a)	・500番台の記載を追加する
92	記載修正	(入出力形式)Content-type の記載誤りの是正	"application/json"はContent-type に設定される事が無いが、設定されることがあるような記載となっているため	02_アプリベンダー向け標準インターフェイス仕様書	4.4(2)(b) 4.8(2)(b)	(入出力形式)Content-typeの設定値から"application/json"の記載を削除する
93	仕様変更	(入出力形式)Content-type の記載誤りの是正	"application/json"固定と記載されているが、"application/xml;charset=utf-8"が設定されるパターンが存在するため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.6(1)(e)① (ア)	(入出力形式)Content-typeの設定値に"application/json"または"application/xml;charset=utf-8"のいずれかが設定される旨の記載に改める
94	仕様変更	公開鍵証明書ファイル取得インターフェイスの「公開鍵バージョンID」の物理名変更	標準仕様書の物理名が命名ルールに従っていなかったため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.7(1)(b) 4.7(1)(c)	公開鍵証明書ファイル取得インターフェイスのリクエストとレスポンスの「公開鍵バージョンID」の物理名を以下の通りに変更する。 × PublicKeyVersionId ○ X-CPS-PublicKeyVersionId
95	仕様変更	公開鍵証明書ファイル取得インターフェイスのレスポンス項目「有効期限」の追加	標準仕様書上の記載が漏れていたため	03_機器ベンダー向け標準インターフェイス (デバイス) 仕様書	4.7(1)(c)	公開鍵証明書ファイル取得インターフェイスのレスポンスに「有効期限」を追加する。 × PublicKeyVersionId ○ X-CPS-PublicKeyVersionId
96	記載修正	共通鍵暗号化方式の鍵長の記載誤りの是正	「①共通鍵暗号方式」鍵長が128固定になっているが、正しくは128bit, 192bit, 256bitから選択できるため	05_水道標準プラットフォーム外部仕様書	5.1.3(1)(b)	鍵長の方式について、以下の通りに記載を修正する。 × 128bit ○ 128bit, 192bit, 256bit から選択できる
97	記載修正	データ暗号化で利用する鍵情報及び電子証明書の最新化	従来の記載だと、取得方法および利用箇所が不明瞭であったため	07_CPSIoTセキュリティ仕様書	2.4	表 2-4: データ暗号化と利用する鍵情報及び電子証明書全般に見直し (電子署名に関する記載は削除)
98	記載修正	データ送信時のデータ暗号化の処理順、および補足説明の見直し	従来の記載だと、処理順および処理説明が不明瞭であったため	07_CPSIoTセキュリティ仕様書	2.4.1	図 2-6: データ送信時の処理(データ暗号化の付与)処理フローの見直し、補足説明の記載変更
99	記載修正	データ受信時のデータ復号の補足説明の見直し	従来の記載だと、処理説明が不明瞭であったため	07_CPSIoTセキュリティ仕様書	2.4.2	図 2-7: データ受信時の処理(復号)補足説明の記載変更